

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4030181号

(P4030181)

(45) 発行日 平成20年1月9日(2008.1.9)

(24) 登録日 平成19年10月26日(2007.10.26)

(51) Int. Cl.

F I

B 0 5 C 17/00 (2006.01)

B 0 5 C 17/00

B 0 5 C 5/00 (2006.01)

B 0 5 C 5/00

A

B 6 5 D 35/02 (2006.01)

B 6 5 D 35/02

A

B 6 5 D 35/22 (2006.01)

B 6 5 D 35/22

B

B 6 5 D 51/20 (2006.01)

B 6 5 D 51/20

請求項の数 1 (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平10-118230
 (22) 出願日 平成10年4月28日(1998.4.28)
 (65) 公開番号 特開平11-309399
 (43) 公開日 平成11年11月9日(1999.11.9)
 審査請求日 平成16年10月20日(2004.10.20)

前置審査

(73) 特許権者 000006714
 横浜ゴム株式会社
 東京都港区新橋5丁目3番11号
 (74) 代理人 100066865
 弁理士 小川 信一
 (74) 代理人 100066854
 弁理士 野口 賢照
 (74) 代理人 100066885
 弁理士 斎下 和彦
 (72) 発明者 峯尾 和之
 神奈川県平塚市追分2番1号 横浜ゴム株
 式会社 平塚製造所内

審査官 土井 伸次

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 粘性体の吐出治具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

筒状のフィルムパックに収容された粘性体を、前記フィルムパックの一端側を開口させて他端側から手で扱うことにより絞り出す際に使用する粘性体の吐出治具であって、

前記吐出治具本体に略円錐状に形成されたノズルの裾部に、前記フィルムパックの開口側端部を支持する支持部と、該支持部に前記フィルムパックの開口側端部を水密的に貼付ける接着手段とを設け、更に前記支持部に、前記フィルムパックの開口側端部に穿孔を施す穿孔部材と、前記フィルムパックの周面を長手方向に沿って覆って密着する弾性覆袋とを設けた粘性体の吐出治具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、シーリング材等の粘性体の吐出治具に係わり、更に詳しくは円筒状のフィルムパックに収容されている粘性体をコーキング用ガンまたはシーリング材用ガンを使用することなく、しかも手を汚すことなく効率良く吐出させることが出来る粘性体の吐出治具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、シーリング材等の粘性体の吐出治具としては、図8に示すような施工コーキングガン1のシリンダー部2内に、シーリング材を充填して密封した円筒状のアルミラミネート

フィルムから成るフィルムパック 3 の一端側を切断して挿入し、所定位置を切断して吐出口を設けたノズル 4 を取付けた状態でハンドル 5 を操作することにより、ピストン 6 を移動させてフィルムパック 3 の他端側からシーリング材を押し出すようにして使用している。

【 0 0 0 3 】

【 発明が解決しようとする課題 】

このように、ソーセージタイプのシーリング材が充填されたフィルムパック 3 は、シーリング材用のコーキングガン 1 の使用を前提として設計されているため、使用時にはコーキングガン 1 が必ず必要となる。

またフィルムパック 3 から直接何の用具も用いなくてシーリング材を吐出させようとした場合、フィルムパック 3 の一端側先端をカッターや鋏等で切断し、フィルムパック 3 自体を手によって扱かなければならず、切断の手間及び扱いている際に手が汚れる等の不具合があった。

【 0 0 0 4 】

この発明の目的は、シーリング材用のコーキングガンを使用することなく、しかも手を汚したり、末端部を一々切断することなくフィルムパックから粘性体を効率良く吐出させることが出来る粘性体の吐出治具を提供することにある。

【 0 0 0 5 】

【 課題を解決するための手段 】

上記目的を達成する本発明は、筒状のフィルムパックに収容された粘性体を、前記フィルムパックの一端側を開口させて他端側から手で扱うことにより絞り出す際に使用する粘性体の吐出治具であって、前記吐出治具本体に略円錐状に形成されたノズルの裾部に、前記フィルムパックの開口側端部を支持する支持部と、該支持部に前記フィルムパックの開口側端部を水密的に貼付ける接着手段とを設け、更に前記支持部に、前記フィルムパックの開口側端部に穿孔を施す穿孔部材と、前記フィルムパックの周面を長手方向に沿って覆って密着する弾性覆袋とを設けたことを要旨とするものである。

【 0 0 0 6 】

この発明は、上記のように構成され、フィルムパックの一端側を、穿孔部材を設けた場合には一端側を切断することなく、ノズルの裾部に設けた支持部に接着手段を介して水密的に貼付け、また穿孔部材を設けない場合には、フィルムパックの一端側を、カッターや鋏等で切断した後、ノズルの裾部に設けた支持部に接着手段を介して水密的に貼付け、更にその支持部に、フィルムパックの開口側端部に穿孔を施す穿孔部材と、フィルムパックの一端側周面を覆って密着する弾性覆袋とを設けたので、粘性体を手等を全く汚すことなく効率良く押し出すことができ、また事後の廃品回収も容易に行うことが出来る。

【 0 0 0 8 】

【 発明の実施の形態 】

以下、添付図面に基づき、この発明の実施形態を説明する。図 1 は、シーリング材等の粘性体 W をフィルムパックから吐出させる吐出治具の第 1 参考例を示す斜視図であって、吐出治具本体 1 0 は、略円錐状に形成されたノズル 1 1 の裾部 1 2 に、予めカッターや鋏等で切断して開口させたフィルムパック 1 3 の一端側周面を支持する支持部 1 4 を設けると共に、支持部 1 4 の内壁面に、フィルムパック 1 3 の一端側周面を水密的に貼付ける両面テープ等の接着手段 1 5 が設けてある。

【 0 0 0 9 】

また、支持部 1 4 には、フィルムパック 1 3 の一端側周面の一部または全部を覆うフィルム状覆袋 1 6 を設けることも可能である。

このように構成することで、フィルムパック 1 3 の一端側の所定位置 K - K を、カッターや鋏等で切断して吐出口を形成した後、フィルムパック 1 3 の一端側周面をノズル 1 1 の裾部 1 2 に設けた支持部 1 4 に接着手段 1 5 を介して水密的に貼付け、そしてフィルムパック 1 3 の他端側から扱うことによりノズル 1 1 の先端部に粘性体 W の吐出量に応じて切断した吐出口（図示せず）から粘性体を効率良く押し出すことが出来るものである。

【 0 0 1 0 】

また、ノズル 1 1 の裾部 1 2 に設けた支持部 1 4 に、フィルムパック 1 3 の一端側周面を覆うフィルム状覆袋 1 6 を設けた場合には、粘性体 W を押し出す際には、手等を全く汚すことなく作業ができ、事後の廃品回収も容易に行うことが出来るものである。図 2 は、この発明の吐出治具の第 2 参考例を示す斜視図であって、この参考例は、ノズル 1 1 の裾部 1 2 に形成した支持部 1 3 に、開口していないフィルムパックの一端部に穿孔を施す穿孔部材 1 7 を設けたものである。

【 0 0 1 1 】

従って、上記第 1 参考例のように、フィルムパック 1 3 の一端側を、カッターや鋏等で切断して吐出口を形成することなく、フィルムパック 1 3 そのままの状態フィルムパック 1 3 の一端側周面をノズル 1 1 の裾部 1 2 に設けた支持部 1 4 に接着手段 1 5 を介して水密的に貼付け、そしてフィルムパック 1 3 の他端側から扱うことにより粘性体 W を効率良く押し出すことが出来るものである。

10

【 0 0 1 2 】

上記穿孔部材 1 7 としては、図 3 ~ 図 6 に示すように、所謂、フランジ部 1 8 を備えた断面逆円錐台状に形成された支持部材 1 9 の中心部に粘性体 W の吐出穴 2 0 を設け、この吐出穴 2 0 の略中心部には、逆円錐状の傾斜面を備える周縁部 2 0 a に連結された補強用リブ 2 1 を交差（十字状）するように設け、前記各補強用リブ 2 1 の両端部及び各補強用リブ 2 1 間の周縁部 2 0 a には、断面三角形の先端が尖鋭な主突起部 2 2 と補助用突起部 2 3 とがそれぞれ対称的に配設してある。

20

【 0 0 1 3 】

前記各補強用リブ 2 1 に設けた先端が尖鋭な主突起部 2 2 の先端は、先にフィルムパック 1 3 の一端側に当接して、該フィルムパック 1 3 を破るように、補助用突起部 2 3 の先端よりも若干高く形成してあり、主突起部 2 2 で破れない部分については、補助用突起部 2 3 により確実に破り、フィルムパック 1 3 に確実に孔を形成して粘性体 W を円滑に、かつ最後まで吐出させることが出来るようにしている。

【 0 0 1 4 】

図 7 は、この発明の吐出治具の実施形態を示す断面図であって、ノズル 1 1 の裾部 1 2 に、開口していないフィルムパック 1 3 の一端部に穿孔を施す穿孔部材 1 7 を設け、ノズル 1 1 の裾部 1 2 には、フィルムパック 1 3 の一端側周面を覆って密着する弾性覆袋 2 4 が設けてある。

30

【 0 0 1 5 】

この弾性覆袋 2 4 も、上記第 1 参考例に記載したフィルム状覆袋 1 6 と同様に粘性体 W を押し出す際に手等を全く汚すことなく作業ができ、事後の廃品回収も容易に行うことが出来ると共に、フィルムパック 1 3 から粘性体 W を自動的に絞り出す際に弾性覆袋 2 4 の弾性力を利用して絞り出すことが可能となる。

【 0 0 1 6 】

以上のように、この発明の参考例である吐出治具は、従来のようなシーリング材用のコーキングガンを使用することなく、吐出治具本体 1 0 のノズル 1 1 の裾部 1 2 の支持部 1 4 の内壁面に設けた接着手段 1 5 にフィルムパック 1 3 の一端側周面を水密的に貼付けることで、フィルムパック 1 3 の他端側から絞ることで粘性体 W を効率良く吐出させることが出来るものである。

40

【 0 0 1 7 】

この際、第 1 参考例のようにノズル 1 1 の裾部 1 2 に穿孔部材 1 7 を設けない場合には、予めフィルムパック 1 3 の一端側を、カッターや鋏等で切断した後、ノズル 1 1 の支持部 1 4 に接着手段 1 5 を介して水密的に貼付ける。

【 0 0 1 8 】

また、ノズル 1 1 の裾部 1 2 に穿孔部材 1 7 を設けた場合には、フィルムパック 1 3 の一端側を切断することなく、フィルムパック 1 3 の一端側をノズル 1 1 の支持部 1 4 に接着手段 1 5 を介して水密的に貼付け、そしてフィルムパック 1 3 を絞り出す際に穿孔部材 1

50

7にフィルムパック13の一端側周面を押圧してやると、上述したように断面三角形状の先端が尖鋭な主突起部22と補助用突起部23とがフィルムパック13を突き破り、フィルムパック13内から粘性体Wを吐出させることが出来るものである。

【0019】

また、フィルムパック13にフィルム状覆袋16や弾性覆袋24を被せてフィルムパック13を絞り出す際には、手等を全く汚すことなく作業ができ、事後の廃品回収も容易に行うことが出来るものである。

【0020】

【発明の効果】

この発明は、上記のように吐出治具本体に略円錐状に形成されたノズルの裾部に、前記フィルムパックの開口側端部を支持する支持部と、該支持部に前記フィルムパックの開口側端部を水密的に貼付ける接着手段とを設け、更に前記支持部に、前記フィルムパックの開口側端部に穿孔を施す穿孔部材と、前記フィルムパックの周面を長手方向に沿って覆って密着する弾性覆袋とを設けたので、従来のようなシーリング材用のコーキングガンを一々使用することなく粘性体を吐出させることが出来るので、粘性体の吐出作業の作業性を向上させることが出来、またフィルムパックを絞り出す際には、手等を全く汚すことなく作業ができ、事後の廃品回収も容易に行うことが出来、更にフィルムパックの一端側を切断することなく、フィルムパックの一端側をノズルの支持部に接着手段を介して水密的に貼付けて押圧するだけでフィルムパックに吐出孔を自動的に開けてフィルムパック内から粘性体を吐出させることが出来る効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 シーリング材等の粘性体をフィルムパックから吐出させる吐出治具の第1参考例を示す斜視図である。

【図2】 吐出治具の第2参考例を示す斜視図である。

【図3】 穿孔部材の正面側斜視図である。

【図4】 穿孔部材の正面図である。

【図5】 図4のA-A矢視断面図である。

【図6】 図4のB-B矢視断面図である。

【図7】 本発明の実施形態からなる吐出治具の断面図である。

【図8】 従来のシーリング材用のコーキングガンの説明図である。

【符号の説明】

- 10 吐出治具本体
- 11 ノズル
- 12 裾部
- 13 フィルム
- 14 支持部
- 15 接着手段
- 16 フィルム状覆袋
- 17 穿孔部材
- 18 フランジ部
- 19 支持部材
- 20 吐出穴
- 20a 周縁部
- 21 補強用リブ
- 22 主突起部
- 23 補助用突起部
- 24 弾性覆袋
- W 粘性体

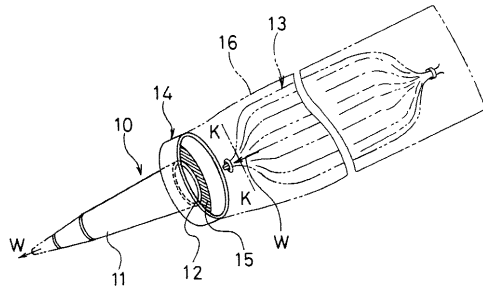
10

20

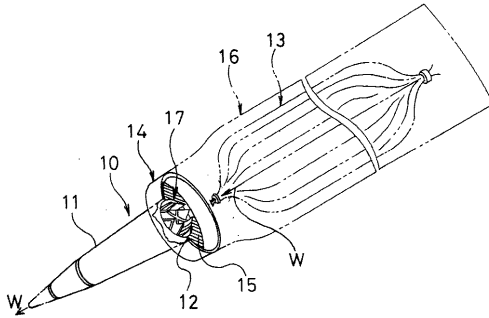
30

40

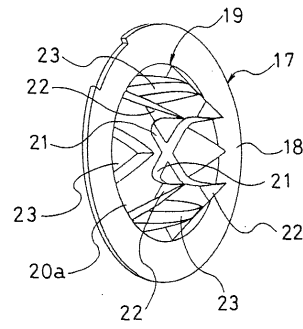
【図 1】



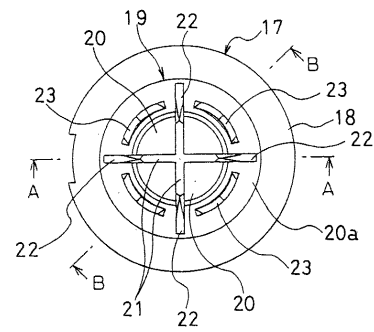
【図 2】



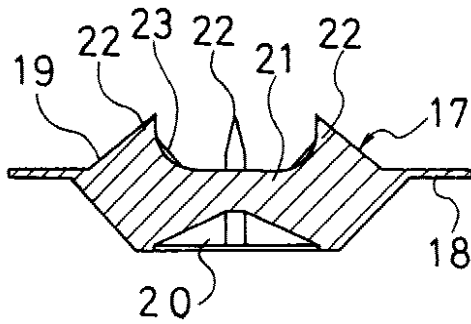
【図 3】



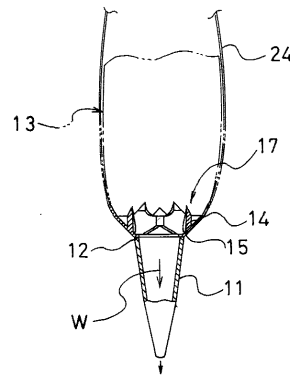
【図 4】



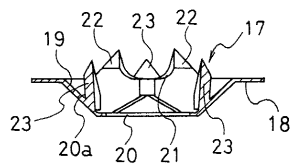
【図 5】



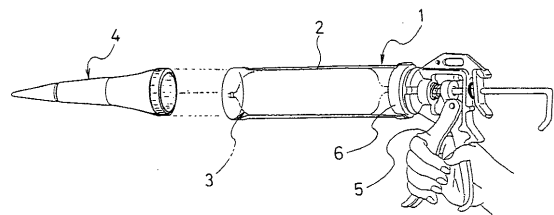
【図 7】



【図 6】



【図 8】



フロントページの続き

(51) Int.Cl. F I
B 6 5 D 77/04 (2006.01) B 6 5 D 77/04 F

(56) 参考文献 実開昭 5 8 - 0 4 0 2 7 0 (J P , U)
特開平 1 0 - 0 2 9 6 4 6 (J P , A)
特開昭 5 6 - 0 5 1 2 6 5 (J P , A)
実開平 0 3 - 0 6 4 2 3 0 (J P , U)
特開昭 5 7 - 1 2 7 4 6 7 (J P , A)
特開平 0 6 - 3 4 5 1 3 6 (J P , A)

(58) 調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B05C 17/00
B05C 5/00
B65D 35/02
B65D 35/22
B65D 51/20
B65D 77/04